

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500076		
法人名	特定非営利活動法人 エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム桃源の家大島		
所在地	岡山県笠岡市西大島4415番地1		
自己評価作成日	令和3年 3月10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和3年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海・山・田畑豊かな自然に囲まれた環境の中に施設があり入居者様、お一人おひとりが安楽にその人らしい生活を送って頂けるよう笑顔があふれるケアを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山や川に囲まれ空気が心地良い自然豊かな環境の中にある。職員は入居者一人ひとりに寄り添いながら気持ちを汲み取り、個々のペースに合わせたその人らしい生活が送れるように心がけている。日常的に散歩や日光浴、ドライブなどで外出の機会を設け機能訓練や気分転換へとつなげ、入浴ではその人の湯加減に配慮したり会話を楽しむなど習慣や好みを把握し、個々に寄り添った支援に努めている。事業所の運営推進会議は地域の自治会や老人会の交流の場としての役割を果たし、住民の支援がスムーズに行われるなど協力関係を築いており、地域に貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた笠岡エリアの話を日常的に行って安心感を持っていただけるようにしている。理念を朝礼時に復唱している。	事務所内に理念を掲示し毎朝復唱し、利用者が個々に合わせたペースで過ごせるように支援している。職員は月間目標を決め、管理者はその都度職員に声かけして理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、回覧板や町内清掃に参加させていただいている。	利用者の散歩時に近隣住民と挨拶を交わしている。運営推進会議が自治会や老人会などの交流の場となり、相談を受けたり、地域住民の支援をスムーズに行うことができるなど、地域貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゆっくり話しかけること、時間をかけ行動することなどを運営推進会議を通じて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7、9、11月に開催し、参加して頂いた方達と共にホームの現状や災害時などの協力体制等について話し合っている。非開催時は開催者に連絡している。	愛育委員・民生委員・包括支援センター・法人役員などの参加を得て本年度は4回開催している。地域の問題を中心に情報交換をして協力関係を築いている。包括からは資料を用いての情報発信が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等では連携を取っている。生活保護自給者の方々の事も担当者で連携を取っている。	運営推進会議を通じて情報交換できている。管理者が事務手続きを、ケアマネが介護保険の更新手続きなどを窓口となって行っている。利用者の状況について地域福祉課と情報交換し、包括からは利用者の紹介があるなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回以上の委員会や年2回以上の研修会を事業所内で行っている。	本部での委員会が年3回以上あり、事業所のミーティングで伝達と日々の振り返りをしている。気があれば管理者から声をかけ、リーダーはその都度事例検討をして、安全面に配慮したケアに取り組んでいる。外に出たい人には話を聴いて見守ったり散歩に出かけ気分転換を図るなどして対応している。	事業所内で身体拘束に関する研修や勉強会を実施し、共通認識を図り、職員の意識の向上と実践につなげることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	担当者を決め研修会や勉強会を行っている。傷等を発見した際は職員全員で共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約前のインテーク等で把握し必要であれば助言を行えるようにしている。 現在了されている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得いくまで説明を行い、契約後も不明な点について丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表す機会はないが、年一回法人より全家族へアンケートを実施している、またその結果を全事業所で共有し反映している。	利用者からは日常生活の中で、家族からは面会やケアプラン更新時に意見や要望を聴いている。饅頭が食べたいとの要望にはおやつで提供し、外に出たい要望にはドライブなどで反映させている。利用者の話を傾聴し健康面に配慮することで家族の要望を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行っている。	毎月のミーティングで職員一人ひとりの気付きや要望を聴いている。また随時勤務に関する事、換気や掃除に関する意見を取り入れ反映させている。担当職員が誕生日会を企画し日用品などの必需品をプレゼントしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績は昇給に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を開き、技術や知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の訴えを傾聴し、表情を読み取ることで、どうすれば安心できるかを汲みとれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは施設見学を勧めてグループホームがどういう所なのかを知っていただき、悩みや不安を拝聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況や希望を伺いグループホームで出来ること、出来ないことを説明し、必要であれば地域包括支援センターや、他のサービスを紹介する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が安全に出来る範囲の事(モップ掛け、テーブル拭き、食器洗い)等を一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等にて居室等で本人と家族の方だけで話ができる空間を提供している。面会制限時は玄関ホールにて短時間(10分程度)面会していただく。遠方のご家族様には電話等でお話していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所可能な時はホール等でお話して頂けるようにしている。電話等で連絡を取っている。	家族とは玄関で面会している。家族から電話があったり、個人の携帯電話で連絡をとる人がいる。年賀状が来る人、馴染みの美容院へ介護タクシーで行き家族と会う人、墓参りに行く人もいる。事業所では利用者の写真やコメントを担当者が郵送し関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションが取るやすいように、一緒にお話をしたり歌を唄ったり、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街でご家族とお会いすることがあれば、挨拶する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発語が難しい方には、身体状況認知症状、行動を踏まえて意思確認をしている。	散歩や入浴時などに寄り添って話を傾聴し、また職員からも話題を提供し思いや意向の把握に努めている。会話や食事の様子から食事の嗜好を察するなどして、利用者の思いを職員間で共有している。困難な場合は仕草や行動から察知し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、入居前の担当ケアマネ、医師等から情報を得たりご本人から昔話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何か手作業をしている方が落ち着かれる方、居室でゆっくり休まれる方等、一人ひとりの過ごし方を把握し、ご本人にできるだけ合わせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意思を確認し、医師等からの意見をもらいながら、職員の気づき、意見をまとめ計画を作成している。	利用者と家族の意向を確認し、職員や医師の意見も取り入れ、アセスメントを行い介護計画を作成している。3ヶ月に1度のモニタリング、6ヶ月毎にカンファレンス・見直しをしているが利用者の状態に応じてその都度検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者との会話の中で、どのように思われているかを考察する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム以外で過ごして頂ける時間を設け、楽しんで頂けるようにする。誕生日会でプレゼントを渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域等のインフォーマルサービス等参加を考えているが、新型コロナウイルスのため難航している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族、ご本人に意思確認を行い決定している。受診の際は、近況を記したお手紙を主治医に渡している。	協力医の往診が月1回あり、希望のかかりつけ医も職員同行で受診できる。家族と他院を受診する人には情報提供を行い連携を図っている。夜間や緊急時はかかりつけ医に連絡して対応している。歯科は必要時に訪問診療がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に伝えるべき情報は必ず介護記録に残している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでの生活状況等を添書で伝え、担当のSWとも連絡を定期的に取り替えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に各指針の説明を行っている。その状況になった場合は、ご家族、又ご本人と十分な聞き取りを行いホームで行えることをご家族と一緒に考え実行している。	入所時の重要事項を説明する時に事業所としてできる事・できない事の説明を行っている。状態変化に応じて医師から家族に説明を行い、意向を確認し方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームで勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を行い年1回は水害(津波)等の避難訓練を行っている。 火災避難訓練は、日中と夜間想定でおこなう。	昨年3月に利用者も参加して昼間想定で消防訓練を行った。今月には消防署立ち合いで夜間想定火災避難訓練を行う予定である。災害発生時は事業所に待機する方針であり運営推進会議を通じて地域との協力体制を築いている。備蓄は水を確保している。	災害の発生に備え、食料などの備蓄を検討し確保されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者にとって名前と呼ばれるほうが、なじみのある方もおられるが、「さん」を付けるよう心掛けている。	利用者の気持ちに配慮し、本人の有する能力を活かした声かけや介助を行い、人格を尊重し個々のペースに合わせた支援に努めている。トイレ誘導は近くに寄って声かけし、また希望により同性介助も可能であり、羞恥心に配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の現在や過去の嗜好をご家族様や友人知人等に聞いたりして思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の決まった生活でなく、一人ひとりの体調や気持ち等、ペースに合わせ穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時着慣れているものやなじみのものを持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、後片付け等を一緒に行っていただいている。	各ユニットのリーダーが献立を決め職員が調理している。ちらし寿司や野菜の煮物など利用者の好きなメニューは頻度が高く、旬の果物も利用している。職員が利用者のお好み焼きを焼いたり誕生日やクリスマスケーキなどで食事を楽しむ支援をしている。利用者が食事しやすいように形態や種類を検討し提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師に相談して一日分の栄養や水分量がどれ位必要か聞く。実践できるよう介護記録に記録する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、義歯の方は洗剤を使用している。、自歯のない方はマウスウイッシュ等を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをできるだけ把握し、定時、随時のトイレ誘導を行い下着の着脱等できることはいただいている。	トイレでの排泄を基本に時間や利用者が立ち上がった時などのタイミングを見計らって誘導している。夜間はポータブルトイレを利用する人もいる。個々に合わせたパット類を検討し、利用者の気持ちを表情や仕草などから汲み取り、一部介助や見守りで介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を野菜中心にし、一日一回の体操を行い、水分量のチェックを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、拒否がある時は時間をずらしたり、曜日を変更している。	週2回午後から入浴している。リフト付きの浴槽があり、利用者と職員の負担を軽減している。保湿入浴剤の使用や職員との会話が入浴を楽しむための支援となっている。個々の好みの湯加減を考慮し足浴も併用するなど工夫をしている。入浴を嫌がられる人にはタイミングや声かけで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症の症状や、体調に配慮しながら毎日の軽運動(体操等)をしていただき、気持ちよく寝て頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効、副作用等申し送り等でスタッフ間で共有している。薬が変わり不明な点は看護師を通じて主治医に意見を求める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、モップ掛け等、その人にできる事をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に散歩等を行っている。	日常的に施設の周りや川沿いなどを散歩し景色や川の中の亀やナマズを見たり、庭先で日光浴をして気分転換や会話を楽しんでいる。その人の家の周辺や笠岡の干拓に菜の花を見にドライブに出かけるなど積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時はご家族と話し合いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙を取り継いでいる。難聴などあり、聞こえにくい方へは、スタッフが間に入り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓は大きく開放的になっており四季折々の自然が楽しめる。またそれに合わせた飾りつけ等をしている。	窓が大きく明るいリビングからは人の往来や季節を感じることができる。また利用者の写真や手作りの装飾などが施されている。共用空間は整理整頓がなされ空気の淀みもなく、トイレと浴室が内扉で繋がっており、利用者・職員ともに導線が良いなど、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で過ごしたい時は椅子等を移動して、楽しく話ができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に写真や備品を持ってきていただき、本人が落ち着けるようにしている。	家具や寝具が持ち込まれ、馴染みの品々を活かしてその人らしく暮らせる居室となっている。家族が持ってきた花や職員手作りの誕生日のメッセージが飾られている。利用者の安全に配慮し畳を利用している居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	申し送りや時、カンファレンス等にて能力の把握に努め、その方に合った、安全・安心し自立した生活が送れるよう支援している		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	事業所内で身体拘束に関する研修や勉強会を実施し、共通認識を図り、職員の意識向上と実践につなげる。	法人内で開催されている身体拘束委員会の内容を、事業所内の勉強会で学び、実践につなげる。	勉強会で学習した事が実践できているか現場で気が付いた事を声掛けしている	3か月
2	35	災害の発生に備え、食料などの備蓄を検討し、確保する。	食料などの備蓄に努める。	買い物の際に、余裕を持って食材を購入し、備蓄に努めている。	3か月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()